

群馬大学医学部附属病院

群大病院だより

GUNDAI NEWSLETTER

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町三丁目39-15 / TEL 027-220-7111(代) / ホームページ <https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>

カルテ共有(閲覧)が 外来でも可能となりました 「患者参加型医療」を実践します

放射線診断核医学科長・放射線部長・病院長補佐

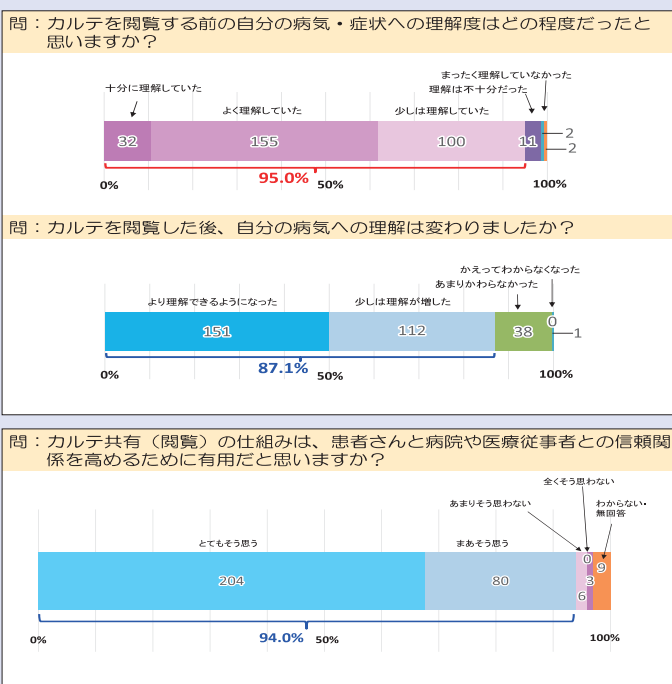
対馬 義人

患者参加型医療とは

群馬大学医学部附属病院では最近 10 年にわたり多くの改革が行われてきました。その内容は多岐にわたりますが、大きな柱の一つとして「患者参加型医療」の推進があります。これは患者さん自身やそのご家族などに積極的に医療に参加していただくことによって、医療の質を高め、さらに医療安全確保に資することを目的としています。欧米ではすでに多くの実績があり、患者さんの理解度・満足度の向上、治療成績の向上などのみならず、医療者の職務満足度の向上も得られるなど、多くの利点があるとされています。この概念は決して難しいことではなく、たとえば患者さんにお名前と生年月日などを自ら名乗っていただき、個人識別の誤りを回避する方法は、「患者参加型医療」の初歩的なものです。

情報の共有が第一歩

そのために最も重要なのが情報の共有です。当院では 2019 年に入院患者さんが病棟で自分のカルテを共有(閲覧)できるシステムを構築しました。これまでに多くの患者さんに利用していただき、非常に好評です。この試みは、これまで行われてきた事後的なカルテ開示請求とはまったく異なるもので、診療についての全ての情報をリアルタイムで共有(閲覧)するものです。利用された患者さんのアンケートの結果を見ますと、自分の病気などについて十分理解しているつもりでも、改めて閲覧すると理解が増す様子が見て取れます。国内の大学病院で、病院全体としてカルテ共有(閲覧)システムの使用を推進しているのは当院だけです。



図：カルテ共有(閲覧)を経験された患者さんへのアンケートの結果
(回答 302 人)(抜粋)

カルテ共有(閲覧)システムを外来に設置

昨年 12 月からこの仕組みを外来患者さんでも可能となるようにシステム改修を行いました。希望される患者さんは、外来診療の際に担当医にご希望をお伝えください。その場でパスワードが発行されます。外来棟 1 階の患者支援センターと 2 階の南側に閲覧スペースがあります。

皆様の積極的なご利用を切に期待しております。

もくじ

- カルテ共有(閲覧)が外来でも可能となりました 1 ページ
- 「確実な診断と説明で 患者安全を高めよう」
医療安全週間を開催しました 2 ページ
- リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024ぐんまに参加しました ... 2 ページ
- 患者支援センターからのお知らせ 3 ページ
- 群馬県難病相談支援センター群馬県難病医療研修会開催報告
群馬県がん診療連携拠点病院 地域懇話会・市民講座の開催報告
県民公開講座「健康と医療を考える」開催報告
- 新任教員あいさつ 4 ページ
- 病院探検！「DAセンター」 4 ページ
- 「大規模災害発生時の多数傷病者受入訓練を実施しました」 4 ページ

「確実な診断と説明で 患者安全を高めよう」 医療安全週間を開催しました

医療の質・安全管理部長 田中 和美



WHOが定める「世界患者安全の日」である9月17日にあわせて、医療安全週間を毎年開催しています。今年度は「確実な診断と説明で 患者安全を高めよう」をテーマとして9月17日(火)から9月20日(金)に開催しました。

昨年度に引き続き、初日には、「誓いの碑」の前で、「誓いのつどい」を開催し、集まった職員で碑文を読み上げ、医療事故を教訓とし、決して風化させないこと、医療の質と安全の向上のために最善を尽くすことを再確認しました。

医療事故が判明してから10年の節目となり、9月20日(金)には当院の医療事故のご遺族の一人である木村豊氏による講演会を開催し、当時の思いや今後群大病院に期待することなど、お話しいただき、当時のことを振り返り、気持ちを新たにす貴重な機会となりました。

また、各部署における医療安全の取り組みを示したポスターや、各部署および職員個人が考えた医療安全に関する標語を外来棟1階の廊下に掲示し、来院者による投票も行いました。開催内容の詳細は、当院医療の質・安全管理部のウェブサイトに掲載していますので、ぜひご覧ください。



リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024ぐんまに参加しました

群馬県での開催が今年で12回目となる、がん患者さんやそのご家族を支援するチャリティイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパンぐんま」が令和6年10月12日(土)から13日(日)に開催され、当院職員ら約110名が通算20時間のリレーウォークに参加しました。会場のALSOKぐんま総合スポーツセンターふれあいグラウンドには、寄せられたルミナリエ(がんと闘っている人たちや対がん運動への思いを込めた灯ろう)が展示されコースを彩りました。集まった募金は実行委員会事務局を通じ、(公財)日本対がん協会へ寄付されました。



患者支援センターからのお知らせ

群馬県がん診療連携拠点病院 地域懇話会・市民講座の開催報告

群馬県のがん対策推進を目指し、「群馬県がん診療連携拠点病院地域懇話会・市民講座」を、当院ホームページにおいてオンデマンド配信をしております。今回は、群馬大学医学部附属病院 血液内科 科長・診療教授の半田 寛先生と群馬大学医学部附属病院 乳がん看護認定看護師の一場 慶先生からご講演をいただいております。配信期間は2025年3月31日までとなっております。多くの皆様にご視聴いただければ幸いです。

市民講座
オンデマンド配信 視聴無料

配信期間 2024年8月1日(木)～2025年3月31日(月)

配信形式 2D/3D対応

講師 小和瀬 桂子 群馬大学医学部附属病院 患者支援センター長
半田 寛 群馬大学医学部附属病院 血液内科科長

【免疫・分子を使った治療で治す血液がんの最先端治療】
【チームで関わるアビランス（外見）ケアの実践】

配信方法 Zoom 群馬大学医学部附属病院ホームページから視聴いただけます。ご視聴いただくには、事前に視聴料を申し込む必要があります。URL: <https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?p=12646>

TEL: 027-220-7854 群馬大学医学部附属病院 患者支援センター

群馬県難病相談支援センター 群馬県難病医療研修会開催報告

2025年2月4日（火）に群馬県難病医療研修会を開催いたしました。今回は群馬大学医学部附属病院消化器・肝臓内科助教の橋本悠先生に「潰瘍性大腸炎～知っておきたい基礎知識～」をテーマにご講演をいただきました。

難病相談支援センターでは、群馬県内において難病患者およびその家族が地域で安心して暮らすために、難病について早期に正しい診断を受け、診断後により身近な医療機関で適切な外来・在宅及び入院医療等を受けられることができる体制づくりの一助として難病関係支援者を対象に難病医療研修会を毎年開催しております。

令和6年度 群馬県難病医療研修会

潰瘍性大腸炎 ～知っておきたい基礎知識～

群馬県内において、難病患者及びその家族が地域で安心して暮らすために、難病について早期に正しい診断を受け、診断後により身近な医療機関で適切な外来・在宅及び入院医療等を受けられることができる体制づくりの一助として、難病関係支援者を対象に難病医療研修会を開催いたします。

講師 群馬大学大学院医学系研究科 内科学講座 消化器・肝臓内科学分野 助教 橋本 悠 先生

2025 2/4 火 18:00～19:30

開催方法 ZoomによるWeb研修 [30分前より受付]

対象者 医療機関、訪問看護ステーション、保健所・保健福祉事務所、その他 [定員100名]

お申込み 右記QRコードよりgoogleフォームにログインし、必要事項を入力して1月24日17:00までにお申し込みください。Zoomの案内を1月28日頃に送ります。

お問合せ 群馬大学医学部附属病院 難病相談支援センター 内田 Tel: 027-220-8069 Mail: gunmananbyou@gmail.com 内田

県民公開講座

「健康と医療を考える。」開催報告

2024年11月17日（日）に当院脳卒中・心臓病等総合支援センターと群馬県庁が主催となり、群馬県庁の31・32階にて県民公開講座「健康と医療を考える。」を開催しました。専門医による講演、一次救命処置の体験コーナー、健康的な食事の作り方・口腔ケアについての講義、医療スタッフによる相談会等、盛りだくさんの内容で、多くの方々にお集まりいただき、盛況のうちに終了しました。

脳卒中・心臓病等総合支援センターでは、緑の多い群馬県をイメージした「ぐんまのうしん君」というキャラクターとともに、脳卒中・心臓病の啓発活動を行っています。ホームページも日々更新していきますので、ぜひご覧ください。



ぐんまのうしん君



新任教員あいさつ



精神科神経科 教授 **神出 誠一郎**

2024年11月に精神科神経科教授として着任しました神出（じんで）誠一郎と申します。精神疾患は生活全般に大きく影響し、生活の質を低下させる重大な要因として、2013年度から国の5大疾病の一つとして加えられ、こころの健康は社会全体の課題になっています。当科は県内で数少ない入院病床を持つ総合病院の精神科として、当科受診の患者さんだけでなく、体のご病気で入院中の方の心理的サポートや、こころと体の両面で入院治療が必要な方の対応など、当科の特徴を生かした医療で群馬県の皆様に貢献してまいります。



内分泌糖尿病内科 教授 **山田英二郎**

2024年12月より内分泌糖尿病内科教授を拝命いたしました。当科では、持続血糖モニタリングやインスリンポンプ療法などの糖尿病の先進医療を積極的に取り入れ、診断が難しく他科との連携が必要な甲状腺疾患などの内分泌疾患にも対応しています。患者さんが主体的に健康管理に取り組めるよう、患者参加型医療を重視し、医療チーム全体でしっかりとサポートします。これからも患者さんとそのご家族に安心と信頼をお届けできる診療を目指してまいります。

病院探検！「DA センター」

業務効率化や医療の質向上に貢献

ドクターズアシスタント（DA）とは、医師の事務的業務を補助する医療専門職です。当センターは、医師の業務負担軽減を目的とした診療支援部門で、現在24名のDAが在籍しています。医師が診療に専念できるようにサポートし、業務効率化や医療の質向上に貢献しています。これにより、患者さんと向き合う時間が増え、より良い医療提供が可能になっています。今後も診療環境の整備を進め、医療の質向上と病院運営への貢献を目指します。



ミーティング風景

大規模災害発生時の多数傷病者受入訓練を実施しました

総務課

今年も「災害拠点病院」として、教職員の防災意識を高め、多数傷病者受入態勢の強化を図ることを目的として、2024年12月1日に大規模災害発生時多数傷病者受入訓練を実施しました。今回の訓練では、地震が発生し、停電により電子カルテシステムに障害が発生している中、複数の被災地域から負傷者の受入要請が寄せられた状況を想定して行いました。紙カルテによる運用を確認し、各エリアにメッセージャーを配置するなどして医師・看護師・医療職スタッフ・事務職員らが被災者の治療や刻々と変化する状況への対応等の連携を確認しました。訓練で得られた課題を本院災害マニュアルに活かし、病院としての機能強化により一層取り組んでまいります。



群馬大学医学部附属病院「群大病院だより」

第18号 2025年3月

編集 ■ 群大病院だより編集委員会

発行 ■ 群馬大学医学部附属病院

発行日 ■ 2025年3月14日

ホームページ ■ <https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>

病院の理念

大学病院としての使命を全うし、国民の健康と生活を守る。

基本方針

安全・納得・信頼の医療を提供する。
次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。
明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。
医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。